SHINCLUB 89

(株)辰　東京都渋谷区渋谷3-8-10　JS渋谷ビル5F　tel/03-3486-1570　fax/03-3486-1450　URL:http://www.esna.co.jp

松涛 TH　撮影：北田英治

今月のトーク/monthly talk

手間仕事と現場

「バブル以後見積もり内容の説得が難しくなりました」と「松涛 TH」の設計者、齊藤祐子さんは言います。「作る手間、つまり現場でものを作る行為を設計に組み込むことも厳しい状況になっています」

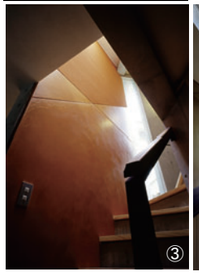
齊藤さんの設計は、自然素材の床、壁を大事にするのが特徴で、左官屋さん、大工さんなど職人さんの良い仕事が必要不可欠の施工となります。特に、湿式工法の建物は工期も十分にとらなくてはならず、他の職人さんとの現場作業の兼ね合いも考慮しなくてはなりません。一般的にそういうことがなかなか理解してもらえていないのが、今の日本の現状だと感じることが多いそうです。
「今回はお施主さんの理解を得ることができ、工期の面でも余裕を見ていただけましたが、現実にはいろいろないい仕事をする職人さんはどんどん減っている感じですね。フォローできる現場の体制も、つくりにくくなっています」と齊藤さん。齊藤さんは大学で学生を教える立場でもいらっしゃることから、若い学生たちに現場の実際の手仕事を体験させるワークショップなどを積極的に行い、建物を作るという行為の大切さを伝えていこうとしています。

「最初に現場に出て、私は職人さんからいろいろなことを学びました。設計者以上に現場の仕事に責任をもつ、職人さんに育てられたと思っています」と齊藤さんは振り返ります。
「特に住宅は、店舗に比べて工期も建物の寿命も長いものです。時間と人の手間をかけてつくることで、世代を超えて住み継ぐことができるはずです。一方、収納や設備は短いサイクルのものです。今は手間よりも設備や商品に高いコストが要求されているように感じます。
住宅を考えることは、住まう『人の行為』を考えることになり、それは『人とまち・自然』とのつながりを考えることが求められます。
現実の施工の難解さが評価されにくく、手間仕事に対してそれが将来にわたって良好な住環境を与えるという認識が得られにくくなっていますね」と環境に配慮した建物をつくることの難しさに言及されます。
「施工の合い見積もりをとるとき、私は一番安いところはとりあえず候補からはずします。設計変更の用件などに対応してもらえるとは思えませんし、工事の内容を理解していないかもしれない、という不安があるからです」

弊社でもさまざまな見積もり案件を頂戴しておりますが、目に見えない部分での経費をどうお客様、設計者の方にご理解いただくかが担当者たちの悩みの種です。期待にお応えするよう、担当者たちは工夫を凝らした積算を心がけますが、安売り合戦になるとどうしても勝負にならない場合もあるようです。形あるものだけでなく、付随するさまざまな事柄に責任を持って当たらなくてはならないからです。

「最近は、昔と違って、いろんな責任がなくなっている気がします」と齊藤さん。「自己責任というけれども、法律や役所の管理に責任を負わせて、自分のすべき範囲の責任を持つということがないがしろにされてきています。本当に大事なのは、つくることに責任を持つ各人の道徳心だと思っています」とお話くださいました。

松涛ＴＨ



①建物正面見上げ。②1階和室からみた居間、階段。手前の木の床部分に引き戸が立てられ、部屋を仕切ることができる。③沖縄朱泥を磨き上げた大津磨きの階段室。段板は「うづくり」で目を立て、歩く人の滑り止めとなっている。④2階居間床は石灰タイル「ライミックス」。伝統素材「漆喰」を焼成することなくタイルにして、乾式工法で利用できるようにしたもの。⑤1階居間。造作家具の塗装は赤と青を混ぜ合わせたオスモカラー。壁天井は珪藻土。⑥2階サンルームから居間を臨む。右側に屋上庭園。

自然素材とスリットによる快適空間

建物は4m×4mの正方形が集まった長方形の箱に、45度の壁や梁、建具を重ね合わせたプランである。庭とその植栽を生かす採光を考慮し、開口部を斜めにした作業のプロセスで生まれたこのアイディアが、建物の外観や内部のいたるところにスリットを生み出し、空間に表情を与えている。今回、特にその効果が生かせたのが正面の開口部分である。以前から、周りの環境に対して、視覚的に開かれたファサードを用意したものの、生活が始まるとプライバシーの保護や近隣との関係から開口部を閉ざしてしまう建物を数多く見てきた。だが、朝夕窓を開き、風や光を取り込む行為は、毎日の暮らしに必要不可欠なものである。それが45度に振られた開口部を持たせることで、個室だけでなく、トイレ、バスルーム、洗面所など、いろいろなところにプライバシーを維持しつつ光や風を呼び込む機能的な場をつくることができた。地下1階のガレージに続くエントランスも斜めの線に沿ってスリット状に三角形の柱を点在させることで、直接的な視線をさえぎりながら気配を感じられるように、建具もデザインしている。現場では躯体の型枠や建具など細かく対応していただいたが、これからもいろいろと展開できるアイディアだと思っている。

建て主の母上のスペースは、高齢者向けのグループホームなどの設計を手がけてきた経験を生かし、極力自立性をサポートしながら、家族とのコミュニケーションを取りやすいプランとした。小さいながら水周りも専用とし、引き戸でフレキシブルに空間を仕切ることができるようにした。

内装にはこれまでも無垢の木や土壁など自然素材を好んで採用している。1階の寝室や書斎の床には鳥取の智頭杉、厚さ3センチの無垢板、1階の居間の床は淡路の敷瓦、2階の床にはライミックス、その他コルクなどを用い、壁は珪藻土や漆喰塗りで仕上げている。木部や造作家具の塗装はドイツの健康塗料を採用している。暮らしてみると、これらの自然素材は吸放湿性に優れているため、室内の空気や温熱環境がとてもよい。化学建材との違いは歴然としている。しかし、施工作業は養生にも時間がとられ、今の日本の施工システムから敬遠されているのも事実である。1,2ヶ月の工期の差とその後の環境を考えれば、現場で「つくる」という行為がもっと見直されていいのではないか、と思っている。

（齊藤祐子氏　談）

所在地：渋谷区
用途：専用住宅
構造：RC造
規模：地下1階　地上2階
設計：齋藤祐子／SITE
構造設計：建築構造企画
竣工：2007年4月（第1期）
撮影：北田英治

ＪＭ３３５

シンプルなファサードに内包される、ヨーロッパの都市の街路性

敷地は神宮前3丁目交差点の近く、キラー通りから1本路地を入った、奥まった場所である。市松模様の外壁が、すっきりとした印象を与える。クリエーターやアーティストの多い地域だが、全面ガラス張りのようなインパクトのある外観より、ニュートラルでかつ単純な構成のファサードにしたかった。

パリの裏通り、ギリシャの細い集落など、ヨーロッパの町並を歩いていると、ちょっとした路地に迷い込み、不思議な空間に出会うことがある。「こんなところにこんな空間が…」というようなそんな小さな驚きに似た感覚をこの場所で出したかった。そのため、店舗そのものは2つのブロックで構成されたシンプルなものであるが、通常の建物のようにエレベーターの上下移動で訪れる人を単純に内側へ取り込むのではなく、地下と、上階の店舗へと2方向のアプローチを設けた。上階へは建物の東側の緩やかな階段を進み、左側に折れる。白い壁の切通しの間から真っ青な空を望むかのように、吹き抜けの空間が伸びている。2つの屋上はやはり白い橋が結んでいる。

最近の自分の設計では、ap bankがプロデュースした、「kurkku koti」「kurkku piha」に続くウッドフレンズ都市開発事業部門の第3弾になる。いずれも建物内部に仕掛けられた街路性空間の楽しさを味わっていただければと思っている。（関根裕司氏　談）

所在地：渋谷区
用途：店舗　構造：RC造　規模：地下1階、地上2階
設計：関根裕司/ARBOS　竣工：2007年6月　撮影：斎部功

①全景。押出成型セメント板とガラスサッシの市松模様が個性的。②建物東側に設けられた上階へのアプローチ。1階の「The SECRETCLOSET（ザ・シークレットクローゼット）」は、ユナイテッドアローズでのレディース物のバイイングやディレクションを手がけてきた小野瀬慶子氏が立ち上げたショップ。③建物中央の階段から見上げた上層階。ギリシャの町の路地裏から見上げたような空がまぶしい。④地階美容室「TWIGGY」は多くの著名人のヘアデザインを手がけている松浦美穂さんの店。奥のドライエリアは緑豊かな空間。⑤西側夜景。

つくる行為を大切に　　齊藤祐子／SITE

齊藤祐子　　profile

1954年　埼玉県さいたま市浦和生まれ
1977年　早稲田大学理工学部建築学科卒業・U研究室入室
1989年　空間工房101設立
2000年　有限会社サイトへ改組
　　現在、早稲田大学芸術学校講師　一級建築士

受賞
1986年度 SDレビュー入選K－HOUSE（東京都国分寺市）
1995年　国際漆デザイン展・石川　銀賞/漆パーティション－折り
1999年　あたたかな住空間デザイン　優秀賞/OMIYA・I・97（I邸改装）
2006年　日本漆喰協会第1回作品賞/ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑあおぞら・芙蓉病院増築

主な作品
東中野PAO COMPOUND、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑあおぞら、荻窪NH、荻窪KH、浦和NH、浦和Y・FH、軽井沢TH、駒場走り穂+HH 、西荻窪うみがめ荘、ほか

著書 「吉阪隆正の方法」 住まいの図書館出版局

新刊 「住宅建築」2007.3月号　建築資料研究社 （齊藤祐子特集記事）

－今月は「松濤 TH」の設計者、 齊藤祐子氏にご登場いただきます。齊藤先生は、 設計業務の側ら 早稲田大学芸術学校の講師を勤められています。

—建築家を志されたのは、 どういうきっかけからですか？

齊藤：小さいときから絵を描くのが好きで、 同じくらい数学が好きでした。建築はそんな好きなことを生かす世界だと思い、 何も知らずに飛び込みました。 また、父が早大の山岳部出身で吉阪隆正先生（※1）の後輩だったので先生のスケッチが家にあり、そこで「出会った」という感じですね。人生を選ぶなんてことはできない。「出会い」をどう生かせるのかが「人生」と思っています。

建築学科に進んで大学を卒業となったわけですが、 当時はオイルショックの後で、 四年制の大卒女子の就職先はほとんどなかったですね。

—そうでした。 当時は大変でした。

齊藤：卒業後、 吉阪先生のアトリエで設計の仕事を始めましたが、 最初の一年は無給でした。 入所して四年目に、 先生が 63 歳で急逝されてしまい、私は生前の先生と一緒にお仕事をさせていただいた、最後のスタッフの一人となったわけです。

その後、 本の出版や展覧会の準備のために、 数年間、 先生の設計した建築を訪れ、 資料を編集する作業に携わりました。 その膨大な仕事を亡くなった後、 詳しく知ることになりました。

—そして出版されたのが、「吉阪隆正の方法」と「DISCONT 不連続統一体 吉阪隆正＋U 研究室」ですね。 2004 年に没後 25 周年の回顧展が開かれて、 お弟子さんや著名建築家の方々のシンポジウムがあり、 建築に携わる人たちへの影響力はいまだに顕在という感じでしたね。

齊藤：U 研究室は、 先生が陣頭指揮するという組織ではなく、 その時々のスタッフの個性が発揮される、 個人が自立しながら、 有機的なつながりをもつ研究室だったと思います。 先生はそんな組織を「不連続統一体」と言っていました。 その考えが一番現れている建築が八王子の大学セミナー・ハウスです。（※2）

—事務所では住宅設計やグループホームの設計を行い、 早稲田大学芸術学校では設計製図の指導をする一方で、 2003 年から東チベットの「ゲーサンメド小学校」 建設計画に参加され、 現地の建築様式を生かした設計を行われました。＜正式名：中日友好格桑梅朶（ゲーザンメド）小学＞

齊藤:2004 年 9 月に開校し、現在約 200 名の子供たちが学んでいます。NPO 法人・チベット高原初等教育・建設基金会に参加して、 写真展、講演会などの活動を通じて東チベットの文化を紹介しながら文化交流を重ねてきました。 2007 年度は東チベットの遠隔地、 成都から 350km 離れた山岳地域、 少数民族イ族の村に小学校校舎と教師宿舎を建設する計画をすすめています。
http://www.gesanmedo.or.jp/index.html

—写真展に伺いましたが、 現地の子供たちや村の人たちも石積みを手伝ったり、 梁をかけたりして建設に参加していますね。 それからチベットの子供たちの表情が本当に明るく生き生きしていました。

齊藤：この 7 月末からも東チベットへ出かけてきます。 小学校の現状を視察して、 チベット地方の自然や文化をたずねるツアーを企画して学校建設資金や運営補助への協力者を募っています。

—この事務所の入っている『東中野　PAO COMPAOUND』も先生の設計です。 1 階のレストランとエントランス、 エレベーターホールが混然一体となって面白い建物ですね。

齊藤：シシカバブが美味しいお店ですよ。 もともとこの場所には、 木造の住まいの南側にパオ（アフガニスタンの天幕）を張り、 その後約 10 年間飲食店、 じゅうたん屋など自分たちの手で作ったバラック的な店舗が増殖して、 山手通りの拡幅工事で建て替えを決めるまで、 独特な雰囲気を持つスペースでした。 私はその活動の節目に設計という関わりをもったのですが、 今もそのエネルギーを残す場所になっているのではないかと思います。

建築の設計は多くの要素を持ち、 いろいろな人との関わりの中で進めていかなければならない仕事です。 以前は、 油絵を描いてストレス解消したりした時期もありましたが、 40 歳を境に吹っ切れましたね。 一つのことに多くの人が本気でいろいろな形で関われるのが建築のおもしろさだと感じています。 街をつくるのも小さな住まいの力です。 そして、本をつくることも、 学校を作ることも、「建築をつくる」という行為を常に考えていくことになりますから。

—本日はどうもありがとうございました。

※1 吉阪隆正：1941 年早稲田大学工学部建築学科卒業。1950 年～ 1952 年フランス政府給費留学生として渡仏、 ル・コルビュジエのアトリエに勤務。1954 年吉阪研究室［1964 年U研究室と改称］を創設。ヴェネチア・ビエンナーレ日本館、アテネ・フランセ、 大学セミナー・ハウスなどを設計する。また、 今和次郎に師事し、農村、都市、地域への提案を展開。『住居学汎論』など多数の著作があり、『吉阪隆正集　全 17 巻』としてまとめられている、日本の代表的建築家の一人。

※2 DOCOMOMO20 に選ばれた「八王子セミナーハウス　竣工：1965 年」は吉阪隆正＋U 研究室の代表作。8 期の工事を経て現在、築 40 年を過ぎ、ユニットハウスの大半が壊され、十分なメンテナンスが行われないという課題も生まれているが、 齊藤氏や鈴木恂氏など研究室の OB を中心に「ぐるぐるつくる大学セミナー・ハウス実行委員会」を設けて、学生たちに「建築を作ること、使い続けること、解読すること」の意味を考えるワークキャンプを開催している。
http://www.guruguru-tukuru.com/refarence/index.htm

ゲーサンメド小学校と子供たち　撮影：北田英治

私の1週間 22　辰の現場監督が毎回登場します。

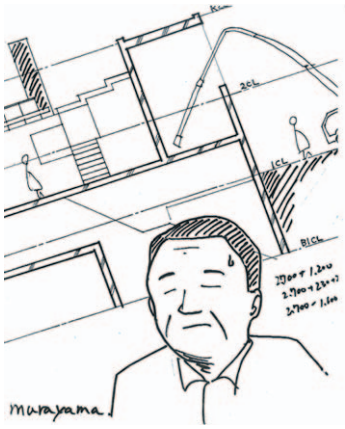
―建築部、最古参の間瀬の話は一週間にまとめられず、約一年間になってしまいました。

担当している神宮前の住宅は、建て主の先生自身による設計の建物である。昨年八月一日に契約をしてから一年経った。こだわりのある先生なので、正式な引渡しは終えたものの、現在も細かい追加工事に追われている。

予算の関係で専門業者に仕事を追加依頼できないところは、主任の自分がいろいろと対応しているところもある。設計の先生は皆さんデザインを優先させたいお気持ちを持っているが、こちらは最初の見積もり金額は死守しなくてはならない。現場を預かる身としては苦しいところだ。今回は特に最初の躯体工事の段階で、通常の建築と異なるために苦労した。

昨年の九月、山留工事を開始。地下一階の天井高さは五mである。根伐の深さは六m五〇。この深さだと山留工事は二度に分けなくてはならない。約一ヶ月を要した。

十一月、コンクリート打設開始。地下一階の耐圧コン打設からである。



建物は地下一階、地上二階だが、アジアの寺院のような複層の空間になっていて、内部への入口も四箇所ある。コンクリートを打つときには低い方に流れ込まないように、各レベルの打設日をずらさなくてはならない。型枠の組み方も難しくなる。鉄筋も施工図だけでは正確に出せず、業者は現場で確認しながら加工した。

コンクリート打設の工程を振り返る。一階は三期に分けて行なった。

間瀬　昭雄

意匠重視の設計に
応える現場の苦労

一月二十五日
一階スラブ①打設。
一月二十九日
一階スラブ②打設。
二月十五日
一階スラブ③打設。
三月三十日
二階スラブ。二階は一階のときに学んだコツを生かして、一度の打設で済ませることができた。
それにしても、材料と時間が通常の同規模の建築よりかなり多くなってしまうのである。

地下は、かなり広いスペースで、下りていく階段は持ち出し階段、その横の壁板に五十六個の色とりどりの電球がはめ込まれている。

一階は事務所と和室が設けられている。斬新なデザインの茶室で部屋の奥の濡れ縁のようなところに、アジアから建て主が持ち帰られたタイルを細く積み上げて内装の壁の仕上げに使っている。根気の要る作業で職人は丁寧に積み上げていった。床はガラスである。

二階の個室の天井スラブはキャンティで、サッシが入っているが、壁は片側だけだ。段差の高いテラスが隣接している。建具家具の塗装はオスモカラーの五度塗りである。窓際のベンチは三枚の板を張り合わせたものだ。

毎晩現場が終わってから施工図面を描き、家に帰るのは十二時過ぎ。朝の六時半に家を出て、八時に現場入り。何のために生活しているか、文化的な生活とは何か、時々考えてしまう。最近は役所に提出する工事関係書類も増えて事務作業に追われることも多い。現場を管理する若い才能がつぶれないよう、皆で考えていかなくてはならないと思う今日この頃である。

1952年生まれ　岩手県出身

担当した主な物件　（設計者）
- 筑波大学附属駒場中学高等学校 創立50周年記念会館（安田宣之）
- メゾンケンシン
- ジーク池袋（大場大司）
- ParkLaneCourt （辰一級建築士事務所）
- 谷本デンタルクリニック（白濱力）
- MHH-05（大杉喜彦＋絵美）
- 下馬2丁目PJ（大森伸一）

TOPICS/INFORMATION

「大岡山プロジェクト　新築工事」
地鎮祭　7月25日

斜線規制をフルに生かした共同住宅が、大岡山に誕生します。

構造：RC造　地上3階
用途：共同住宅
設計：千葉学建築計画事務所
完成予定：2008年3月

「五本木1311計画　新築工事」
地鎮祭　7月25日

東急東横線祐天寺駅が最寄り駅。屋上、ロフト付きの戸建て感覚のメゾネット住宅です。

構造：RC造　地上2階
用途：共同住宅
設計：辰一級建築士事務所
完成予定：2007年12月

「虎ノ門1邸　新築工事」
地鎮祭　7月26日

老舗蕎麦店「虎ノ門砂場」の木造既存店舗（耐震補強中）の隣に住宅と厨房を新築します。

構造：S造
用途：住宅・厨房
設計：降旗建築設計事務所
完成予定：2007年12月

編集後記

・今月は現場にかかわる率直な意見を掲載させていただきました。よい建物を作りたいという気持ちは、設計者の先生同様、施工者側も同じように持っています。お客様が満足いただける施工を行なうために社員は、日々努力を重ねています。

(株)辰　通信　Vol.89　発行日　2007年8月10日　編集人：松村典子　発行人：森村和男